

本殿左右の脇障子に「獅子の子落し」が配されている。

その意味するところは、獅子は子を産んで三日過ぎると、千尋の谷に故意に我が子を突き落とし、そこから這い上がってきた子だけを育てると言う。

娯楽の少なかった昔、村の祭礼は唯一の楽しみであった。境内にはたくさんのお屋敷が所狭しと並び、楽しい一時を過ごせた憩いの場でもあった。

参拝した折りに、親は子供に、「獅子の子落し」や想像上の龍などの彫刻の意味を講釈を垂れたのだろう。

この題材は多くの彫刻師(彫物大工)が、脇障子ばかりではなく、祭り屋台や神輿などにも数多く取り上げている。

神社名について触れると、一番多いのが八幡神社、次いで稲荷神社、そして神明神社と続き、数多ある神社の中で

伊弉子神社という社名はあまり耳にしない。あまりと言よりは聞いたことがない。

伊弉子神社の祭神は「千葉原神社名鑑」に依ると、伊弉子姫命となっている。

宮司に依ると、祭神は同じく伊弉子姫命であると言う。この神様を各種の書物や事典等で調べたが、発見できなかった。更に神社本庁にも問い合わせたが、結局わからなかった。

日本神話を考えると、神生み国生みの神は伊弉諾尊(伊耶那岐命)と伊弉冉尊(伊耶那美命)である。伊弉諾尊が黄泉国の穢れを落とし、禊を行うと左目から天照大神、右目から月夜見尊、鼻からは弟の素戔鳴尊(建速須佐之男命)の三貴子が生まれた。

記紀神話(古事記と日本書紀)の宇宙は地上界が葦原中国、天上界は高天原、そして地下は黄泉国からなるという。斯くして、この天上界の最高神の女神(男神との説もある)が天照大神であるという。

そこで私見ではあるが、社名と社名について次のように

考察をした。伊弉諾尊と伊弉冉尊の子が天照大神である。天照大神は女神であることから、伊弉諾尊の子すなわち伊弉子姫命と命名されたものと考えられないだろうか。記紀にはこの伊弉子姫命の社名は出てこない。「神社明細帳」によると、伊弉子神社の祭神は何と「大日靈貴命」と書かれているのではないか。これには愕然とした。なぜならこれがキーワードとなったからである。天照大神の別名が大日靈貴命(おほひるめのみこと)と言う。または、天照大日靈貴尊とも言う。伊弉子神社の祭神である伊弉子姫命とは、天照大神別名大日靈貴命のことではないだろうか。社名は伊弉子姫命を祀った伊弉子姫命の姫命が省略され、伊弉子神社と称号されたものと考えられる。往古この地に清宮を創建するにあたり、素晴らしい神社名を付したと言えまいか。

茂原市文化財審議会委員 片岡 栄

文芸コーナー

俳句

久方の友と華やぐ冬花火

武居 敬子

初春や蓮を別け入る池の鯉

高橋 良昌

水盤の中で咲いている浮き椿

金網 あき子

短歌

大波や小波乗り越えおだやかな

米寿迎え神に感謝す

田中 ふみ

川柳

今年こそ巳年に願う宝船

鳥海 久子

ボケ防止メモした紙が分からない

横田 清

愛想よくあくデパートの自動ドア

大野 登志子

還暦へ子等が計画祝膳

河野 美津子

幼児から有名塾へ親が燃え

高橋 由紀子

百名山踏破している山ガール

押野 三枝子

喜寿迎え共助の予感する介護

稲子 勝久

相撲史に残る気合いのロボコップ

大井 康章

オレオレへまた留守電がたしなめる

大久保 稔

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。

●投稿は楷書でお願いします。

※俳句、短歌、川柳の原稿送付先

〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市役所秘書広報課宛「文芸コーナー」と朱書きしてください。